

焼損床面積10,000㎡以上の倉庫火災の発生状況

(火災報告より作成)

発生場所	発生年月日	建物 延べ面積 (㎡)	建物焼損 床面積(㎡)	焼損 棟数	負傷 者数	覚知から鎮火 までの時間
滋賀県 守山市	S55.11.29	14,949	14,949	1	0	21 時間
岐阜県 笠松町	H9.11.20	26,012	18,497	1	0	12 時間
愛知県 蟹江町	H14.12.26	11,389	11,409 (11,389)	2	0	14 時間
埼玉県 さいたま市	H23.4.10	19,064	19,064	1	0	35 時間
愛知県 蟹江町	H26.11.29	25,252	19,782	1	0	45 時間
埼玉県 三芳町	H29.2.16	71,892	45,000 ※調査中	1	2	296 時間

備考1 「建物焼損床面積(㎡)」の括弧内は、火元建物焼損床面積。(期間：昭和54年～平成28年)

2 「火元建物用途」が倉庫の火災(焼損床面積10,000㎡以上)を抽出。

焼損床面積 10,000 m²以上の倉庫火災の事例

○ H9. 11. 20 岐阜県笠松町

本倉庫火災は、夜間に発生したため通報が遅れ消防が現着した際は、最盛期を迎えていた。また、倉庫内には衣類を入れた段ボール箱が大量に集積されており、残火処理に時間を要した。(羽島郡広域連合消防本部から聞き取り)

建物焼損床面積：18,497 m² 活動時間：12 時間

○ H23. 4. 10 埼玉県さいたま市

午前6時55分ごろ、さいたま市岩槻区馬込、王子運送岩槻物流センターの倉庫の窓から煙が出てると近所の女性が119番した。鉄筋3階建て倉庫（建面積約8,500平方メートル）から出火して燃え続け、地元消防が同日夜も消火活動をした。けが人や、付近住宅への延焼の恐れはない。

岩槻署やさいたま市消防局によると、倉庫は窓が少ないため消防隊員が中に入れず、消火に手間取った。同日夜から重機で外壁を壊して放水している。倉庫には主に衣類が保管されており、出火当時は無人だった。ストーブを使用していた場所があり、岩槻署は出火との関連を調べる。(日本経済新聞より)

倉庫内に保管されていた大量の衣類等の物品の火災のため、多量の濃煙熱気が発生したことから、消火活動に時間を要した。(さいたま市消防局から聞き取り)

建物焼損床面積：19,064 m² 活動時間：35 時間

○ H26. 11. 29 愛知県蟹江町

愛知県蟹江町須成西の運送会社「中部第一輸送」で11月29日夕に発生した火災は、鉄骨スレート葺き5階建ての倉庫を全焼。出火から丸一日以上たった12月1日午前1時現在、鎮火していない。蟹江署によると、出火当時、倉庫には複数の従業員がいたが、けが人はいない。同社関係者によると、倉庫にはスナック菓子やポリ袋（段ボール箱詰め）などが保管されていた。署などによると、丸一日以上燃え続けた原因については、30日夜の段階では分からないという。火災の原因について「フォークリフトを充電するコンセントの付近にほこりがたまっていたのではないかと漏電の可能性を指摘した。(中日新聞より)

開口部が少なく直接放水ができなかった。(蟹江町消防本部から聞き取り)

建物焼損床面積：19,782 m² 活動時間：45 時間

(参考) H3. 5. 15 東京都足立区

耐火造6階建倉庫併用事務所の4階倉庫部分から出火し、3、4階部分6,165 m²を焼損するとともに、収容物の靴等140万足（合成樹脂及びゴム製）を焼失した。

当該建物は、無窓階の建物でかつ内容物の合成樹脂等が多量に燃焼したため、濃煙熱気が充満し、消火活動は困難を極め、覚知から鎮火まで99時間42分と長時間を要した。

初期の段階では濃煙熱気により進入は不能であったため、4階の西側壁体に民間重機で注水口を8カ所設定し消火活動を行い、最終的には5階床面に4カ所の注水口及び西側の換気口2カ所を破壊し、はしご車及び屈折放水塔車等による内部への注水を実施するとともに、重機で燃焼物等の活動障害を除去しながら筒先を進入させ消火にあたった。(東京消防庁資料より)

建物焼損床面積：6,165 m² 活動時間：100 時間

消防職員が殉職した倉庫火災の発生状況

1 消防職員が殉職した倉庫火災の発生状況

(期間：昭和39年～平成28年、焼損床面積3,000㎡以上)

発生場所	発生日	建物 延べ面積(㎡)	建物焼損 床面積(㎡)	焼損 棟数	殉職者数		覚知から鎮火 までの時間
					職 員	団 員	
東京都品川区	S39.7.14	7,500	7,500	10	18	1	4 時間
埼玉県比企郡吉見町	H7.11.8	4,154	4,154	1	2		23 時間
神戸市東灘区	H21.6.1	4,715	3,484	1	1		16 時間

2 殉職事案の詳細

(1) 東京都品川区 (勝島倉庫火災)

昭和39年に東京都品川区で発生した倉庫火災では、最初の出火から約1時間後に倉庫に無許可で保管されていたプラスチック硬化剤メチルエチルケトンパーオキサイド(商品名パーメックN)が爆発し、隣接する10号倉庫が崩壊し、消防職員及び消防団員19名が外壁の下敷きとなり殉職した。

(2) 埼玉県比企郡吉見町 (東洋製罐埼玉工場)

平成7年に埼玉県吉見町で発生した無人大型ラック倉庫で、缶を束ねるポリエチレンシートから出火。火災は、周囲のラック内の製品等に次々に延焼拡大、消火活動中に農煙、熱気により死者3名(職員2名、消防協力者1名)、重軽傷者6名が発生。外からの消火は屋根、外壁等に阻まれ鎮火まで23時間を要した。

(3) 神戸市東灘区 (株式会社三輪北工場・倉庫)

平成21年に神戸市東灘区深江浜町にある株式会社三輪(みつわ)北工場・倉庫で、大規模な火災が発生、建物内壁のサンドイッチパネル内の発泡ウレタンフォームが燃焼し、火災が急激に延焼拡大したため、神戸市消防職員1名が殉職した。

この火災を受け、倉庫火災発生時の消防活動に関する留意事項(安全管理マニュアルの徹底等)を通知(参考資料1-1参照)